

<子ども教育学科> (認定課程: 幼稚園教諭一種)

各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	子どもや子どもの発達に関する基本的な理解を深め、「養護」と「教育」の一体化を意識しつつ「保育内容」の5領域を総合的に捉える視点を獲得する。また、子どもの言葉の発達や子どものしなやかな心と身体を養うことの重要性を理解し、それらを促進するうえで、教師や保育者が果たすべき役割についての基本的な理解をもつ。
	後期	教育・保育の現代ニーズに対応しうる専門職として、「保育者の役割と責務」「保育者の制度的な位置づけ」「保育者の専門性と専門的な成長」について理解する。また、子どもの言葉の発達を促すための環境づくりの方法を実践的に理解する他、子どもの心身の健康を育むための指導計画の立て方や教育の展開方法を知る。
2年次	前期	教育思想の基本的な考えを知り、教育思想を教育実践に生かすための子ども理解や教師の資質への理解を深める。子どもの「人間関係」における「集団」と「個の育ち」の基本的な関係を理解する他、子どもにとっての環境の意味を考え、子どもが「環境」との応答的關係の中で体験的に育つことを理解する。また、教育課程の基本構造の認識に基づいて指導計画を立案する方法や自己評価・学校評価の方法を知る。
	後期	教育におけるカリキュラムの意義を知り、編成方法を理解する。子どもが人間関係の葛藤を乗り越えて人と支えあうための指導のあり方や、自然と共生するための教育方法を事例や実技を通して具体的に理解する。また、子どもの自我の発達に応じた教育方法について理解と省察を深める。さらに、幼稚園にて1週間の教育実習を行い、日々の教育実践の全体的な姿を体験的に知る。
3年次	前期	子どもと「表現」の関係について、基礎的な理解を得る。また、教育現場での表現遊びの事例を参考に、表現分野での教育実践力の素地を形成する。
	後期	教育現場における組織のマネジメントやリーダーシップについての理論を学び、実践方法を獲得する。また、子どもの表現力を高める指導力や実践力を獲得する。保育方法論を学び、乳幼児期から小学校までの子どもの「養護」と「教育」の一体化を視野に入れた教育方法を理解する。また、子育て家庭の抱える問題を理解し、教育相談の知識と対応力を身につける。また、幼稚園にて3週間の実習を行い、「観察実習・参加実習・部分実習・責任実習」などを通して、子どもの動きや教師の役割などについて具体的な理解を深める。
4年次	前期	各自の専門的関心に応じて幼児教育の諸相についての学習を掘り下げる。
	後期	各自の専門的関心に応じて幼児教育の諸相についての学習を掘り下げる。また、教育現場での実践を多角的に振り返り、教育実践力を高める。